

株式会社 笠間製本印刷

〔業種〕 印刷物の企画・製造・販売

事業
計画名

通帳等の印刷物製本工程の革新による
特許印刷技術の競争優位性の強化

- ◆代表者名 代表取締役社長 田上 裕之
- ◆設立年月日 昭和37年5月1日
- ◆所在地 〒924-0021
石川県白山市竹松町1905番地
- ◆TEL 076-275-9002
- ◆FAX 076-275-9202
- ◆URL <https://www.kasama-jp.com>
- ◆E-mail tagami@kasama-jp.com
- ◆従業員数 76人
- ◆資本金額 50,000千円



連動する「菊全紙折機」、「パンチ搬送装置」

事業に取り組んだ経緯・背景

当社は明治8年の創業以来、預金通帳、小切手・約束手形、預金証書・出資証券、金融機関用伝票、一般印刷物、クリアファイル、ストーンペーパーの印刷を取扱っている。年間約7,200,000冊の生産を行っている主力の預金通帳については、いったん不良を出してしまうと顧客は監督官庁から厳格な指導を受けることから、絶対に不良品の社外流出は避けなければならない。また、不定期ではあるが金融機関や預金に関わる法律改正等があると大量の通帳の刷り直しが発生(1回の発注は10万冊)するため、それを見越した短納期生産体制を構築しておかなければならない。この状況から、約0.98%ある不良品発生への対応が喫緊の課題となっていた。そこで本事業において不良発生の抑制と、それによる短納期化に取り組むこととした。

事業内容

最終製品の不良率低下を目指す上で一番大切なことは、製本における上流工程の不良率抑制、高精度化であった。複数の工程を経て、複数の機械を使用し、複数の人間が携わることで、不良となる要素が多く発生する。通帳の印刷後の製本工程は、①断裁加工、②穴あけ加工、③折り作業、④差し込み作業、⑤ミシン作業、⑥表紙貼り作業、⑦検品・納品となる。このうち、①断裁加工、②穴あけ加工、③折り作業は、それぞれ別の機械で別の人間が行うため、1mm単位での断裁規格とのズレ、所定位置への穴あけ精度ズレ、折り作業での汚れ・曲がり・しわも発生しやすく、品質の非均一性、つまり不良発生につながりやすいことがわかった。そこで本事業では、製本工程におけるこの三つの工程を一工程に集約し、携わる工程、機械を減らすこととした。

導入した機械装置は「菊全紙折機」、「パンチ搬送装置」、で、この二台の機械を一体的に連続して設置し、印刷後の原紙を給紙することで、裁断、穴あけ、折りまでの作業を高精度かつ高速でワンチャックで処理することができるようになった。

事業の成果

機械装置導入後、試運転を経て稼働させ、検証・フィードバックを繰り返しながら、製造に着手、現在に至っている。本事業着手前の製本工程における不良の発生率は0.98%であり、通帳1,000冊あたりの「裁断・穴あけ・折り加工」のリードタイム65分、通帳の納期20日であった。本事業後はそれぞれ0.3%、40分、18日となっており、どの項目も事業着手前の目標値を達成することができた。本事業により製本上流三工程の高精度化・高速化を実現できた結果、金融機関からのより高い要望に応えられるようになるとともに、通帳印刷に余力ができ、多方面からの仕事を受けられるようになった。



預金通帳

事業の現在の状況

一部金融機関においては新規通帳の発行に手数料を課したり、パソコンやスマホなどを使ったデジタル通帳への移行が進むなど、補助事業を実施した平成28年ころとは「預金通帳」に関わる状況が変化しつつある。デジタル化が進展する中で紙の通帳に対する顧客要望は一層厳しくなっているが、補助事業に取り組むことにより得た「製本工程の高精度化・短納期化」は、今の状況下で十分な効果を発揮している。また、預金通帳は様変わりしつつあり、ご当地オリジナルキャラクターや

写真などを用いた「カラフル通帳」、リサイクル可能な100%紙の表紙を用いた「エコクロス通帳」、多様な色覚の方に対応できる「カラーユニバーサル通帳」など、当社は様々な取り組みを行っており、紙の通帳の底堅い需要に応えていくつもりである。



株式会社笠間製本印刷 本社

〔得意分野〕

預金通帳・証券等金融関係印刷

〔主要取引先〕

ゆうちょ銀行、かんぽ生命、全国の各金融機関(約330社)など

〔商品〕

預金通帳、小切手・約束手形、預金証書・出資証券、金融機関用伝票、一般印刷物、クリアファイル、ストーンペーパーなど

〔代表者からの一言〕

創業以来、変わらないのは「お客様の安心と信頼」が得られる製品づくりをモットーとしていること、間違いのない製品を確実にお客様のお手元に届けることを第一に考えております。私たちの創る商品の多くは、世の中に無くてはならないものです。であるからこそ、人々の毎日の仕事や生活における「変化」に敏感であり続けたいと思っています。長年蓄積してきた知識と技術を土台にしたモノづくりに取り組む一方で、伝統に甘んじることなく、常にお客様に選ばれる企業になれるよう、社員一丸となって取り組んでまいります。



代表取締役社長 田上 裕之